

# 国力劣化を招く財政規律主義

## ～財務省がまき散らした俗説～

小林路義 (鈴鹿国際大学名誉教授)



平成30年5月号(254号)  
(皇紀2678年) 毎月1日発行

# 新風

編集人 瀬戸開

発行人 魚谷哲央  
年間購読料 2,000円

維新 新政党・新風本部  
〒604-0934 京都市中京区麩屋町通二条下ル  
第2ふじビル4階  
TEL.075-708-3700 FAX.075-708-3800  
http://shimpu.jp.org/  
otayori@shimpu.jp.org

### 財務省の詐術・詐話に だまされるな

日本の公的債務が一千兆円以上でGDP比二〇〇%以上であることは事実だが、だからといってそれを財政危機と煽るのは、財務省の詐術、詐話でしかない。GDP比二〇〇%以上といふのは、確かに国際的に例がないが、債務の違ひを無視して、GDP比が五〇%か二〇〇%か三〇〇%かなどといふ対GDP比には何の意味もない。日本の国債や自治体の債権の九〇%は日本の国民からの借入れであつて、経済的には日本の国民同士での金のやりとりである。その日本の国民同士の金のやりとりが対GDP比でどうかといつてもそこには何の意味もない。国債が問題となるのは国民がそれを

は国民がそれを買はなくなるときであつて、その前に国債の利率が上がるはず(現状は途方もない超低利率)。従つて、国債発行の限度はその利率をどこまで許容するかによつて決まる。

### 少子高齢化社会への誤解

の返還は借り換えによつてゐるのだから、いつかはそれができなくなるのではといふ心配性の小心者のために、奥の手があることを言つておかう。国債が返せなくなつたら、永久債や相続税のかからない無利子国債の発行が可能である。相続税のかからない国債などたちまちに売れて品薄になるだらう。当然市場金利はものすごく安くなる、といふよりマイナス金利で流通するだらう。

に次ぐ人口大国である(なぜかこのことを誰も言はない)。問題はその人口構成が高齢化だといふことであるが、それは高齢者の年齢定義を変更すればよいこと(将来、高齢者といふのは七五歳以上としてよい)。もう一つの問題は人口の都市集中・地方の過疎化であるが、これはある段階で留つて平衡状態になる。今はその過渡期である。財政の赤字削減は経済成長による税収増によつてしか改善できないが、少子高齢化社会と経済成長(従つて、また累積債務の問題)には直接の関係はない。人口小国でも先進国(オランダや北欧諸国)はこのところずっと日本以上の経済成長をしてゐる。尚、ここで強調しておかなければならないのは、「失はれた二〇年」のプラスマイナスゼロ成長は、人口減少・少子高齢化社会が原因ではない。あくまで、長年に亘る財政運用のデフレ政策による。明らかなデフレ政策を政治家も官僚もエコノミストも見抜けなかつた。エコノミストは新自由主義がどうかうのと議論するばかりで、政府、大蔵省、日銀によるデフレ政策が根本原因だと指摘できなかった。それに警告を發し続けたのが丹羽春喜先生で、増大するデフレ・ギャップのグラフを持ち歩いて、政府紙幣の発行を提唱してをられたのは、いまだ記憶に新しい。多くの人が引つかかつたのは政府紙幣への戸惑ひだったが、丹羽先生が政府紙幣に

### 財政規律主義の陥穽

財政規律主義、いはゆるプライマリー・バランスの重視は一国の経済政策をゆがめる最悪の経済政策である(但し、自治体の場合は、自治体内部ではなく、よそから借り入れるので、財政規律主義は必要)。財政規律主義が大事なものは、国の借金を海外に依存してゐる場合であつて、一国の借金を国内で賄つてゐる場合(と基軸通貨国)は不要である。問題の根幹は、一国の財政政策を家庭の家計と混同する、或いは故意にさう思はせる財務省の省策とその「ご説明」によつて飼ひ慣らされた政治家、エコノミスト、ジャーナリズムの怠慢である(しかも、財務省は政府の借金と併行して政府資産が七〇〇兆円あることを長い間隠してきた)。これは完全なデフレ政策であつて、消費税増税によつてプライマリー・バランスを図ることは全く不可能である。実際、消費税増税を凶れば、成長減退をもたらし、税収は必ず減つてしまふ。橋本内閣の「三%→五%」のとき、また第二次安倍内閣の「五%→八%」のとき正にさうなつた。既に経験済みなのである。だから、消費税増税は三%以上の経済成長のときに行ふべき

### アベノミクスは道半ば

なのである。三%以上の経済成長などといふと、それは夢のまた夢と思ふかも知れない。さういふ心理こそがデフレなのである。国の借金の増大は平成に入つてからの、年金と国民総医療の医療費の増大による。従つて、経済成長のための財政出動と社会福祉費の見直しとは区別して考へなければならぬ。当然、年金支給開始の七〇歳化や高度医療費の抑制は必要であるが(本気でこれをいふ指導者がゐないことが大問題)、かういふ問題と機動的な財政支出を混同してはならない。

アベノミクスは一、大胆な金融政策、二、機動的な財政政策、三、民間投資を喚起する成長戦略、を三本柱とするものであつたが、二については、平成二五年のみで、後は財政支出を延ばしてゐない。むしろ財政引締めになつてしまひ、平成二六年の消費税増税と共にその後の(個人消費の)デフレ心理への後戻りをもたらしてゐる。日銀の金融緩和だけでは二%の物価上昇ができない理由である。従つて、平成三一年の消費税増税は絶対にやつてはならないし、積極的財政出動を図るべきなのである。デフレ心理をいまだ克服できてゐないときに、国力を劣化させる詐術師・財務省の財政規律主義の陥穽にはまつてはならない。

### 新風驟雨

しんぶうしゅう  
▼中学二年生の秋から一年半、体育の授業はラグビーだつた。体育教師の方針だつた。全員初心者だつたが二ヶ月もしない内に、生徒の多くは夢中になり休み時間を惜しんで楕円ボールのパス練習をする者もゐた。体育教師はラグビーのクラブ活動は認めず各々既存のクラブで研鑽しろとの事だつた。いろいろなボールゲームの団体戦でラグビー程楽しいものはなかつた。▼新日鉄釜石や神戸製鋼の黄金期辺りから頻りにテレビ中継される様になつて最近はややイングリッシュやウエールズなどの本場海外チームの観戦も難くない。ラグビーは格闘技に勝る戦闘性、トラック競技に劣らぬスピード性、別けてもゲルム競技を上回るチーム性など勇猛で華麗で凄絶かつ緻密、大胆でノーサイドの選手の姿は清絶に映える。▼ラグビーを面白くするには決して欠かせないルールがある。「オフサイドルール」だ。前の百年程に人類が残した、抗生物質や相対性理論、高層ビルもナイロンもつくつたけれど、これらと並んで遜色ないのがオフサイドルールの確立だ。ラグビー、サッカー、ホッケーを堪能する素だ。体育教師が贈る言葉に「不器用な奴もうまくなつた。軸が確りして人間の厚みが出てきたぞ」と慈眼のまな差しだつた。(板)

### 本紙目次

- 一頁： 国力劣化を招く財政規律主義 財務省がまき散らした俗説
- 二頁： 新風ニュース 他